



# やあ!

1998  
MAY  
No.55

5

## 市町村文化財紹介 足尾町

### 間藤水力発電所跡

日本初の水力発電所である間藤の水力発電所は、それまでの薪や木炭に代わる動力として足尾銅山坑内の排水・坑内電車・電灯等に利用され、銅山近代化の原動力となった。

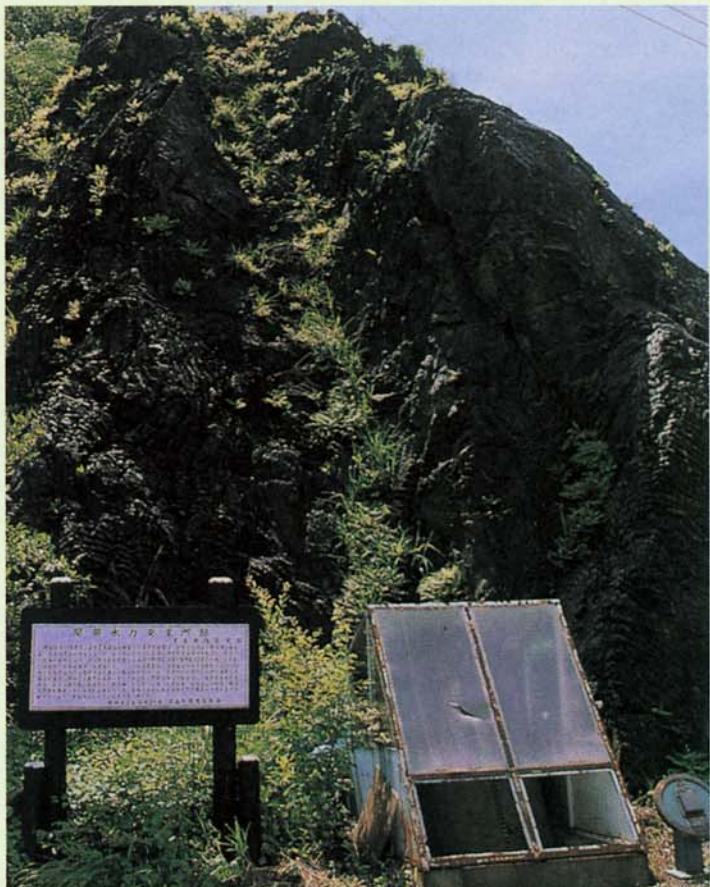
当時の名残をとどめる直径1メートルの鉄管の一部が上の平崖下にある。

#### The site of the Mato Waterpower Station

The first waterpower station in Japan was established in Mato. The Ashio Dozan Mine (a copper mine) used the power generated at the water station to drain water, to operate the trolley, and to light up the mine. Water replaced wood and charcoal as the main source of power and modernized the copper mine.

A part of an iron pipe (one meter in diameter) still remains at the foot of Uenotaira.

### 青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介 シリーズ NO. 10



## ホンジュラス

### ようこそとちぎへ

平成10年度県費留学生  
中国・浙江省から県国際交流員

- ◆ JETコーナー 外国語指導助手 ジョン・アートルさん
- ◆ トピックス 栃木県の高校生がフランスでホームステイ
- ◆ 国際交流団体紹介 開発教育ネットワーク

**TIAホームページ**

URL <http://www.pto.co.jp/tia>

## 退任のご挨拶



財団法人  
栃木県国際交流協会  
前理事長 大江敏夫

このたび、理事長職を退任させていただきました。

平成8年7月の就任以来、県、市町村、各関係機関、関係団体等の皆様にはひとかたならぬお力添えをいただき、厚くお礼申し上げます。

近年、世界は相互依存の関係を深め、情報やヒト・モノ・資本のネットワークが形成されております。こうしたグローバル化が進むことにより発生する問題には、市民の参加による地球規模の取り組みが必要になってくるのではないかと思います。

国際情勢の変化に対応した人づくり、地域づくりのため、また、国際交流活動及び国際協力活動の総合的かつ積極的な推進をはかるための体制の整備の一環として、「とちぎ国際交流センター」が昨年11月にオープンし、県民の皆様や在住外国人の方々にご利用いただいているところです。今後もこの拠点を活かし、時代のニーズに応える国際協力・国際貢献活動を展開していくことを期待してやみません。

最後になりましたが、これまでご協力やご指導を賜りました関係者の皆様方に重ねて感謝を申し上げ、退任の挨拶といたします。

### Notice of Retirement

I have resigned my position as Chairman of TIA. I would like to express my heartfelt gratitude to the prefectural and municipal organizations as well as other groups who have assisted me since I assumed the chairmanship in July of 1996.

Recently, mutual relations among nations have deepened, and networks of people, products,

and capital have been established. However, with the advancement of such networks also come problems which can be solved only through world wide cooperation, beginning at the local Level. So, in order to educate our citizens about the changes in the international situation, improve our society, and to promote international relations, the Tochigi International Center has been opened. The center was established last November and is open to all residents of Tochigi, both foreigners and japanese. It is my hope that the center will be utilized for activities which develop and contribute to international cooperation.

In closing, I want to again express my appreciation to all those who generously provided their leadership and cooperation.

Thank you very much.

Toshio Oe,  
Former Chairman

slogan and viewed it as a base from which to solve the problems of internationalization. Considering the present state, we, as individuals, must think about how we can contribute to and cooperate in the internationalization of our own communities.

In Tochigi Prefecture alone, over 10 percent of our citizens traveled abroad last year. Moreover, registered foreign residents make up over 1 percent of all Tochigi residents. It is also important to note that the number of foreigners increases every year. In one particular municipality, 1 out of 24 people is a foreign resident. Even in small communities, foreign residents are an integral part of everyday life.

Since the Tochigi International Center opened last November, we have worked to increase the number and variety of events so to meet the needs of this age.

We will continue to strive to promote international relations, and we ask for your continues support and cooperation.

Masahiko Imai,  
Chairman

## 新理事長あいさつ



財団法人  
栃木県国際交流協会  
理事長 今井聰彦

このたび、財団法人栃木県国際交流協会理事長に就任いたしました今井でございます。

環境問題のスローガンとして掲げられた「グローバルに考え、ローカルに行動する。Think globally, Act locally」という言葉は、今やさまざまな地域協力のスローガンとして掲げられ、国際化の問題に「地域」の視点で取り組むことが求められております。こうした現状を考えますとき、私たち一人ひとりが、地域において今できる国際協力・国際貢献は何かをよく考え、行動することが求められているものと思います。

### Greetings from the Newly appointed Chairman

My name is Masahiko Imai and I have assumed the Chairmanship of the Tochigi International Association.

"Think Globally, Act Locally" is often used as a slogan for Environmental groups. Recently, many local associations have also chosen this

# ようこそとちぎへ

welcome to Tochigi

## 平成10年度 県費留学生

4月6日（月）、県費留学生を乗せた飛行機が成田空港に到着した。今年度の県費留学生は新規1名、継続3名の計4名で、全員ブラジル人。現在、宇都宮大学と白鷗大学で勉強している。

- ①年齢 ②出身 ③研修科目 ④留学先  
⑤メッセージ（敬称略）

### 〔新規留学生〕

#### 豊田ナイール昌子



- ①25 ②ブラジル・ピラールドスール市 ③動物生産学 ④宇都宮大学農学部 ⑤小さいときから憧れていた日本に留学生として来ることができたのは、多

くの方々のおかげです。心から感謝しています。留学中は、日本の進んだ学問、文化、歴史など、多くのことを学びたいと思っています。そして、留学期間を終えて帰国した後は、日本とブラジルの交流のためにつくしたいと思っています。言葉も充分ではありませんし、気候や習慣も大分ブラジルとは違うと思いますので、いろいろとお世話になることだと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

### 〔継続留学生〕

#### 西山マルガレッテ小百合



①31 ②ブラジル・サンパウロ市 ③国際法学 ④白鷗大学法学院 ⑤日本に来て1年経ちました。最初は戸惑うことがありましたけれど、徐々に日本の生活に慣れてくれました。春夏秋冬、季節が変わる度ごとに美しい風景を楽しんだ反面、湿気の多い夏の暑さと冬の寒さには少し戸惑いました。日々、日本の文化に触れ、歴史の古さや目新しいことなど発見するのを面白く感じています。大学では、専門である国際法と日本語を特に頑張ります。皆様にはいろいろとお世話になりますが、これからもよろしくお願いいたします。

#### 藤本ファチマ重美



①30 ②ブラジル・リオデジャネイロ市 ③日本語教育 ④宇都宮大学国際学部 ⑤日本に来て1年が過ぎ、日本での生活にもすっかり慣れました。今までの1年間で、日本語を学ぶとともに日本についての知識も深めることができました。今後は、日本語教育についてもっと深く勉強したいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

#### 菅谷リリアン南美江



①23 ②ブラジル・ペレン市 ③応用生物学 ④宇都宮大学農学部 ⑤日本に来て早くも1年が経ちました。ようやく日本の習慣や四季の変化にも馴染み、大学の勉強も順調に進んでいます。また、たくさんの人々と交流したりして充実した生活を送っています。これもまわりの方々のご協力のおかげです。今後も様々なことを学び、経験を重ね、留学中に学んだことを帰国後仕事に生かせるよう、頑張っていきたいと思います。これからもお世話になりますが、よろしくお願いいたします。

## 栃木県国際交流員 (中国語担当)

### 張要武さん (浙江省温州市出身・30歳)



この4月から栃木県国際交流課の国際交流員として就任した張要武さんは、生まれも育ちも浙江省温州市という温州っ子。現在は浙江省人民対外友好協会の傘下の国際交流実業公司の副経理の職にある。

上海にある復旦大学で日本言語日本文学を専攻された。そもそも日本語を学び始めた動機は、日本と中国は一衣帶水の国と言

われているのに、実際には近くて遠い国というイメージが抜けきれず、また、過去の戦争の印象も残る中で、日本語を媒介にして、日本のいいところやお互いの国の理解を手助けできたらという気持ちからだそうだ。

大学卒業後、浙江省中国青年旅行社で日本からの客を案内する仕事に6年間従事したのち、今の仕事に就いた。

今回で来日回数は9回目であり、栃木県にも過去1回来県している。ただこれまで、平均2~3日、長くても2週間ほどの短期滞在で、今回のような長期の滞在は初めてだそうである。

何回も訪れているため、日本の印象は、特に物珍しい部分はないらしいが、「日本はきれいな国。日本人の仕事に対する態度はとてもきめ細かい」と語る。

また、1995年、初めて栃木県に来県したときには3日間滞在し、日光などを訪れたそうだが、今回、栃木県の印象について、「まだ来日して1週間足らずですが、栃木県は自然が豊かで、県民の方々も人情味があると感じました」とも語る。

現在は、昨年の浙江省からの交流員が住んでいた宇都宮市清住町にあるアパートに住んでいる。県庁から徒歩でも通える範囲のため、運動不足解消にと自転車通勤ではなく、歩いて通勤しているとのことだ。

また、栃木県での1年間の滞在期間中にやりたいことについて尋ねると、「今まで仕事が忙しくて、本をゆっくり読む時間がなかったので、たくさん本を読んで、自分を充実させたいと思います。それから、栃木県のみなさんといろいろな交流をして、付き合っていきたいです。特に浙江省をPRして、民間レベルの交流をもっと活発にさせて行きたいと思います」と意欲満々で話してくれた。

日本の食べ物で嫌いなものは?との問いには、「何でも食べますが、唯一納豆が苦手なので、今回の滞在中にぜひトライして克服したいと思います」とチャレンジ精神も旺盛。

今年度は昨年の女性の交流員の卞愛平さんから、男性の張要武さんにバトンタッチされたわけだが、今後1年間の栃木での活躍に期待したい。

# ホンジュラス HONDURAS

ホンジュラスは、中央アメリカの北部に位置し、北部はカリブ海に、南部は太平洋に面しており、海岸地域には低地があるが国土の多くは高原。バナナとコーヒーの栽培がさかんで、両品目で輸出の大部分を占める。

国名のホンジュラス（現地語ではオンドゥラス）はスペイン語の「深み」に由来。コロンブスが4回目の航海で発見し、近くに深海があったため、この名がついた。

## !学費もない、学区もない!

私の任地トルヒーヨは、ホンジュラスの北部、カリブ海沿岸に位置し、人口は1万人程です。私が勤めていた小学校は国連小学校。国連の援助で施設が充実したためこの名前がついたそうです。この小学校は教育先進校の指定を受けており、学校の規模も近隣の他の小学校に比べると大きく、また、教師の給料も他校に比べると若干よいいらしく、町で中心的な活躍をする教師が何人もいます。日本の公立校同様、学費は必要ありませんが、日本と違い学区というものがなく、毎年親が学校に子供の登録をすることで行く学校が決まります。したがって、去年はA校、今年はB校という具合に、毎年違う学校に通うことも可能ですし家が隣同士の児童が違う学校に通っていることもあります。

## 日本と違う出発点

現地での図工の授業といえば、教師が見本作品を掲示して、児童がそれを真似るというものです。見本を忠実に模倣できた作品は優秀作品というわけです。これは教師の側

## 案内人

福田まゆみさん(34歳) 葛生町立葛生小学校教諭(図工)



大学時代の先輩に隊員経験者がいたことから協力隊を知り、めぐまれた自分の環境や日本の「あたりまえ」があたりまえでない国のことを考えるようになる。

大学卒業後、小学校教諭として培ったものを形にしたり、協力隊に参加。1995年12月から1997年12月までホンジュラスのトルヒーヨで小学校教諭として勤務。現職参加。

## 日本の児童にホンジュラスを

派遣期間中、活動に慣れた3か月目くらいから、「Viento de trujillo(トルヒーヨの風)」と題した壁新聞を葛生小学校あてに送っていました。内容は、ホンジュラスの



▲壁新聞「Viento de trujillo」

国の様子や人々の生活、自分の活動内容や生活の中から、その時々で強く印象に残ったことを中心としたものです。ただ、最初のうちは毎月作って発送していたのですが、後半は忙しくなってしまい、多少、間があくようになってしまいましたね。葛生小学校では、私が帰国するまでこの壁新聞を掲示してくれていたようです。読んだ児童の中には質問の手紙をくれる子もいたので、質問に答えるコーナーを壁新聞の中につくったりしました。

## 一見あんこ、でもそれは・・・

むこうでの主食は、トルティージャとフリホーレスとバナナです。トルティージャはとうもろこしの粉から作ったホットケーキのようなもので、焼き立ては香ばしくて

## 作品で遊ぶ

日本ではすぐに手に入る画用紙やクレヨン、色鉛筆なども現地ではなかなか手に入らない。そのため、牛乳パックやトマトパックやベーカーベーカーなど、現地で身近にあるものを利用して作品を作つ



たりしました。今まで単なるごみとして捨てていた牛乳パックが、切り込みを入れるだけで口のあく人形になる。ただの四角い紙が、切り込みを入れて棒に止めるだけで風車になる。ひとつひとつのことに目を輝かせて驚く児童たち。授業のあとは、できた作品を使って遊ぶということを必ずしていましたが、児童は皆、走り回って喜んでいました。

◀現地の子に折り紙を教える





## ホンジュラス

►セマナ・サンタのパレード



▲トルティージャと  
フリホーレス

▲バナナの揚げ物

美味しいです。フリホーレスは豆を煮て、茹で上がったらつぶして、その後、大量の油とタマネギと塩でいためたもの。味はちょっと違いますが、見た目は日本人になじみの深いあんこと同じです。このフリホーレスはトルティージャにのせて巻いて食べたりします。バナナは、甘いものとプラタノと呼ばれる食用バナナの2種類があり、食用バナナの方は、揚げたり茹でたりふかしたりして食べます。他には鶏肉や牛肉をよく食べますが、日本のようにバラエティーにとんだメニューはなく、主食にサラダと肉がつくといった感じです。

## 窓がない家

トルヒーヨのカリブ海の海辺に建つ家は窓がほとんどありません。これは太陽の光が入らなければその分涼しいからというのが理由のようです。他に、現地にはコンクリートブロック積みの家がありますが、こちらの中は、ほとんどサウナ状態です。



## 一大行事「セマナ・サンタ」

ホンジュラスは、約9割がカトリック教徒という国なので、カトリックに関するお祭りや祭日がたくさんあります。その中でも4月上旬の1週間「セマナ・サンタ（聖週間）」は特に大がかりな祭日で、3月に入ったころから人々の話題はセマナ・サンタをどう過ごすかということでもちきりとなり、学校ではセマナ・サンタの過ごし方という授業も行われます。本来、セマナ・サンタは、4月第1週の週末3日間ですが、ほとんどの学校や会社はその週1週間を休みにします。セマナ・サンタ本番の木曜日の夜には、前夜祭のミサが教会で行われます。金曜日には、早朝3時頃から色とりどりのおがくずを使ってアルフォンブラ（じゅうたん）づくりが始まります。区画ごと



◀アルフォンブラの準備

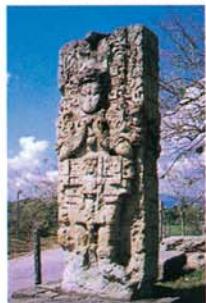
にチームを組み、チームごとにテーマを決めて模様を作成していくのですが、内容がバラエティに富んでいて仕上がりは壮観です。午前10時にパレードが始まると、十字架にかけられたキリスト像がおごそかにそのじゅうたんの上を

進み、午後3時に復活のパレードが行われる頃には、跡形もなくなつただの道をキリストと天使が楽団とともに賑やかに通りすぎていくのです。

## 最古最大のマヤ遺跡・コパン

ホンジュラスには、世界遺産に指定されているコパンのマヤ遺跡やカリブ海に浮かぶダイビングのメッカのロワタン島など、いくつか有名な観光スポットがあります。

コパン遺跡は、古代マヤ遺跡の中で最も古にして最大のもの。マヤの祭祀センターの役割をもち、彫刻の施されたさまざまな遺跡が残されています。



ロワタン島は、イルカと一緒に泳げる島として日本のテレビ番組で紹介されたことがあります。日本人観光客も少なくありません。ここはイギリス領が長かったため、現地語は英語です。私は、この隣の島で、休暇を利用してダイビングの免許を取りました。

## データ

## ホンジュラス共和国



〔国旗の意味〕  
中央アメリカ連邦の名残を残す旗。中央の5つの星はかつての同盟国を表す。1866年制定。

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| ① 面積   | 112,088km <sup>2</sup>   |
| ② 人口   | 614万人（96年）               |
| ③ 首都   | テグシガルバ                   |
| ④ 主要言語 | スペイン語                    |
| ⑤ 民族構成 | メスティーソ 90%、インディオ 7%      |
| ⑥ 主要宗教 | カトリック                    |
| ⑦ 通貨   | レンピーラ                    |
| ⑧ 元首   | 大統領                      |
| ⑨ 建国   | 1838年中央アメリカ連邦から独立        |
| ⑩ その他  | 協力隊員の総派遣人数681人、栃木県からは15人 |

# JETコーナー

外国語指導助手  
ジョン・アートルさん  
(アメリカ出身・23歳)



日本在住の友人が「日本人と友達になるのは難しい」と言っているのを耳にします。これは、彼らもしくは日本人の語学力不足が理由になっていることが多いのですが、私は自分の経験を通じ、コミュニケーションには必ずしも語学力は必要ではないということを学びました。ではどうすればよいのか、例えばこんな方法はいかがでしょう？

1000年以上前に日本に伝えられた「碁」は、木製の碁盤の上で白黒の石を使い対戦するもので、日本人の愛好家は約1千万人いると言われています。碁は日本の文化面でも重要な役割を果たし、その影響は日本語の日常会話やビジネス戦略にも及んでいます。

ます。

碁は私にとって「手段」です。「手段」は英語ではハンドトークと訳されますが、これは言葉抜きでもコミュニケーションは可能であるという意味です。碁の対戦中、無言で相手の戦略を読むことで、人は「手段」という概念を学ぶのです。

来日当初、日本語が殆ど出来なかった私に学生・主婦・会社社長など多くの友人ができたのは、趣味である碁のおかげです。

日本の文化を知りたい方、楽しいゲームがしたい方には碁がお薦めです。ただ単に友達が欲しいという方には、日常のあらゆる場面に応用できる、碁で言う「手段」の概念を知り、役立てていただきたいと思います。

日本で友達を作るのが難しいと思っているあなた、碁会に入り友達を作つてみませんか。

John Ertl

I often hear from my friends living in Japan that it is difficult to make Japanese friends. The difficult for many comes from their lack of Japanese speaking ability, or on the other hand the lack of English speaking Japanese people. From my experiences in Japan I have learned that the ability to speak Japanese is not necessary for communication to take place. Let me suggest how this be done.

The game called go was introduced to Japan

over 1,000 years ago. Go is played by placing white and black stones on a wooden board. It is said that around ten million Japanese play the game. Go has become an important part of the Japanese culture. The influence of go extends from adding new words to everyday Japanese to shaping Japanese business strategy.

What makes go important to me is something called shudan. The English translation of shudan is 'hand talk', and its meaning is that communication is possible without speaking. Through the game of go it is possible to learn a lot about your opponent without saying a word. Anyone who plays go is familiar with this concept of Shudan.

When I first came to Japan I couldn't speak much Japanese. But through my interest in go I was able to make friends a long time before I could ever talk to them. Thanks to go I have made friends with college students, housewives, and company presidents.

I would suggest to anyone interested in Japanese culture, or interested in learning a really fun game, to learn how to play go. But for those of you who are just interested in making friends, I will make another suggestion. That is, the concept of shudan is unique to go. A wide variety of activities can accomplish the same thing. If your interest is in sports, playing the guitar, mountain climbing, or whatever else, you can interact and communicate without speaking.

For those of you who have difficulty making friends in Japan now is a great time to go club participating in my own shudan.

## 国際交流団体紹介

### 開発教育ネットワーク

地球上で起きている環境破壊や貧困、人権の侵害も、私たちの周囲で起きている差別や環境問題も、みな相互に関連していることです。開発教育ネットワークは、こうしたことに気づきながら、共に生きることのできる公正な地球社会づくりのために、私たちに今何ができるかを考え行動することを目指しているグループです。

昨年は「あたらしい国際理解セミナー『開発教育』—われら地球人パート3」を実施しました。このセミナーでは「地球市民をどう育むか」「話し合いの仕方シミュレーション」「環境・開発・平和の関連」「ライフスタイル」「異文化と人権」などについて参加者自身がゲームやシミュレーションを体験しながらテーマを考え、問題に気づく機会となりました。その他に、会員による実践報告

などもあり、開発教育を学校や社会教育の場、また家庭においてどのように展開していくかなどについて学びました。開発教育では様々な背景を持った参加者が全員で意見を交換したり、考えたりする学習過程(プロセス)を重視します。

会の活動としては、県内3地域での勉強会の実施、ニュースレター(県内での開発教育の勉強会や県外の情報案内、会員の声など)の発行やセミナーの実施(年に1回は外部の講師を招いての勉強会)などがあります。会員は教員や公務員、社会教育関係者、その他様々な関心を持って係わっている方がいます。  
(事務局／とちぎYMCA内 担当：大浦智子  
☎028-624-2546)



▶平成9年6月開催  
環境のウェブゲーム

### 知ってて得する なんでもQ&A

#### [夏期のホームステイについて]

Q. 夏休みに海外でホームステイをしたいのですがどうすれば良いのですか？

A. 夏期ホームステイプログラムを行っている団体・会社は多種多様ですので、自分の目的にあったプログラムを提供しているところを探すことが第一に重要となります。最近のホームステイ希望者の好みの多様化に伴い、提供されるプログラムも、単に語学力向上のものからアウトドア体験を中心としたもの、ホストファミリーの手伝いを中心としたものなどいろいろあります。また、参加費用や滞在期間もプログラムによって違います。非営利団体であるE.I.L日本国際生活体験協会(☎03-3261-3451)をはじめ、民間の旅行会社や各種教育団体等の出版している資料を参考にして下さい。なお、プログラムの締め切りの多くは5月～6月となっています。

# 情報発信 地域の国際交流案内

★国際ボランティアプロジェクト参加者募集

▶実施時期=1998年夏(2-3週間) ▶開催地=アメリカ、フランス、ドイツ、スペインなど ▶参加資格=18歳以上の心身共に健康な者 ▶応募受付=4月上旬より(先着優先) ▶問い合わせ=国際教育交換協議会日本代表部☎03-5467-5571(仲野)

★栃木ワーキング・ホリデー・オリエンテーション

▶実施日=1998年6月7日 ▶実施場所=栃木県総合文化センター ▶申込締切=5月29日(定員100名。先着順) ▶問い合わせ=(社)日本ワーキング・ホリデー協会☎03-3389-0181/URL:<http://www.mjp.or.jp/jawhm>

★われら地球人パート4「出会いが創造を生む」-『共育』のためのコミュニケーション

▶実施日=6月13日~14日 ▶実施場所=唐沢青年の家 ▶講師=福沢郁文氏 ▶申込締切=6月6日 ▶問い合わせ=開発教育ネットワーク☎028-624-2546(事務局:大浦)

★スタディーツアー「フィリピンでの農村開発研修」

▶実施時期=1998年7月29日~8月31日  
▶実施場所=フィリピンIIRR ▶参加費用=48万円 ▶申込締切=6月10日(定員5名。先着順) ▶問い合わせ=国際人材開発機構☎&FAX0287-78-3052

# トピックス TOPICS

## 栃木県の高校生が仏国・ヴォークリューズ県でホームステイ

前号で紹介した栃木県高校生フランス派遣団が、3月10日~23日の2週間、パリやヴォークリューズ県を訪れ、フランス文化を体験した。

一行は、パリでルーブル美術館やノートルダム寺院、またパリ近郊にあるヴェ



▲ヴォークリューズ県議会で議員のポール・ジャン氏とホストファミリーに歓迎される栃木県高校生



◀オバネル高校で仲良くなつた友達と一緒に

ルサイユ宮殿など歴史的な遺産の数々を見学したあと、ヴォークリューズ県に移り、県議会で議員のポール・ジャン氏から歓迎の挨拶を受け、ホームステイに入った。

同県での9日間の滞在中、県都アヴィニョンのオバネル高校体験通学や県内外見学を楽しんだ。高校では、ホストスターとともに数学、化学他様々な授業に出席。フランスの教育方法に触れるとともに多くの友達も作った。またアヴィニョンの法王庁をはじめ、中世の面影を残す村や教会、そしてワイン、サントン人形(クリスマス時に飾る)、香水などの工場や展示館を見学し、日本とまったく異なる文化に驚きの声を上げた。

## TIA日誌

1998年3月1日~1998年4月30日

- 3/6 日仏青少年短期研修事業第5回研修会(センター)
- 3/10 日仏青少年短期研修事業高校生フランス派遣 (~23)
- 3/12 県費留学生及び海外技術研修員修了式・送別会(くろかみ)
- 3/14 海外技術研修員成果発表会

(協力隊OB会等主催/センター)

- 3/23 県費留学生及び海外技術研修員帰国
- 3/25 第19回TIA評議員会(センター)
- 3/27 第23回TIA理事会(センター)  
日仏青少年短期研修事業第6回研修会(センター)
- 4/6 県費留学生入国
- 4/7 法律相談開始  
県費留学生TIA、県部長等表敬
- 4/16 県費留学生県知事表敬
- 4/17 青年海外協力隊春募集説明会  
(17宇都宮市・23足利市・  
27大田原市)

## 宇都宮←成田空港

(直通高速バス マロニエ号)

空港ターミナル出発ロビーへ2時間50分!

### ●運賃・片道

大人 4,070円

小人 2,040円

●15名様以上団体割引

### ●お問合せ・ご予約は

マロニエ予約センター または関東バス各営業所へ  
☎(028)638-1730

成田空港ゆき		宇都宮ゆき	
宇都宮発	成田空港着	成田空港発	宇都宮着
5:10	8:00	8:30	11:20
6:10	9:00	14:40	17:30
8:30	11:20	15:40	18:30
10:10	13:00	17:00	19:50
12:00	14:50	18:10	21:00
14:00	16:50	19:40	22:30

## 栃木県交響楽団

第65回定期演奏会

- |    |          |            |
|----|----------|------------|
| 曲目 | チャイコフスキイ | スラブ行進曲     |
|    | 尾高尚忠     | フルート協奏曲    |
|    | ドップラー    | ハンガリー田園幻想曲 |
|    | ブルームス    | 交響曲第2番 ニ長調 |



指揮  
山下一史



ソリスト  
さかはし 矢波

6/21 (日) PM 2:00 ▶宇都宮市文化会館大ホール  
全自由席¥1,500 小中高¥800 宇都宮市内プレイガイドにて販売  
お問い合わせ 栃木事務局 ☎028-643-5288

# TIA Information Corner

## ★国連英語検定試験

▶試験日=第1次試験…1998年7月5日(日)、第2次試験…1998年8月16日(日)(特A・A・B級のみ) ▶受験地=とちぎ国際交流センター(ただし特A級合格者の2次試験は東京になります) ▶検定料=特A級7,300円/A級5,100円/B級4,000円/C級2,800円/D級1,600円/E級1,300円(消費税込み) ▶申し込み=申込用紙(郵便振替用紙)の申込欄に所定の事項を書き込み、郵便局で検定料を振り込む。用紙はTIAで配付。▶申込期限=平成10年6月3日まで。

## ★青年海外協力隊春募集

▶試験日=①1次選考/筆記試験(技術、英語、協力隊員適性テスト)と健康診断(書類審査)…1998年6月21日(日) ②2次選考/面接試験(個人面接、技術面接)及び健康診断(検診)…1998年7月29日から、▶受験地=とちぎ国際交流センター(1次選考のみ) ▶募集規模=約140職種・約800名 ▶応募資格=満20歳から満39歳(平成10年5月31日現在)までの日本国籍を持つ者。▶申し込み=所定の願書を協力隊事務局あて提出。募集要項等はTIA、栃木県庁国際交流課、青年海外協力隊事務局等で配付。▶申込期限=平成10年5月31日まで。

## ★外国人ための無料法律相談を開始

TIAは、栃木県弁護士会の協力により4月から外国人ための無料法律相談を行っています。▶日時=毎月第1火曜日(祝日と重なる場合は第3火曜日)10:00~12:00

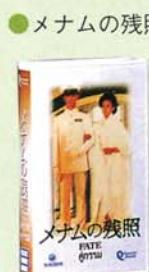
- ▶場所=とちぎ国際交流センター1階相談コーナー(面接相談のみのため、要予約) ▶対応言語=日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・ペルシャ語等。

## ★国際交流定例相談日の変更のお知らせ

これまで毎週火曜日に実施していた国際交流定例相談が、土曜日に変更になりました。対応言語及び時間は変更ありません。▶日時=毎週土曜日9:00~16:00 ▶場所=とちぎ国際交流センター1階相談コーナー(面接相談及び電話相談) ▶対応言語=日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・ペルシャ語。

※なお、精神保健相談は従来どおりで変更ありません。▶日時=毎週火曜日13:30~16:00(面接相談のみのため、要予約) ▶各種相談に関する問い合わせ、法律相談・精神保健相談の予約先=TIA相談員/石川アンナまたは藤井智美まで☎028-627-3399

## ■TIAライブラリー案内 ■ (貸出のお問い合わせはTIAまで)



### ●メナムの残照 FATE

原題は「クーカム」、タイ語で「運命の人」という意味である。原作の小説はタイ人の高い関心と支持を得、幾度となく映画化・TVドラマ化されている。太平洋戦争時出

会った、反日感情を持つタイ人女性アンスマリンと日本人将校コボリ。コボリへの思いと日本への反感の中でアンスマリンの心は揺れ動く…。タイでスラサワディー賞5部門を受賞した感動作。〔ファイブスター・プロダクション(バンコク)制作/タイ語版日本語字幕スーパー/ビデオ〕

## 第23回理事会・第19回評議員会(3月開催)における承認事項

- 平成9年度財団法人栃木県国際交流協会収支予算の補正について
- 平成10年度財団法人栃木県国際交流協会事業計画について
- 平成10年度財団法人栃木県国際交流協会収支予算について
- 財団法人栃木県国際交流協会副会長の委嘱同意について(理事会)
- 財団法人栃木県国際交流協会役員の選任について(理事会)
- 財団法人栃木県国際交流協会理事長の互選について(理事会)

## TIA賛助会員募集中!

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ(海外→日本、日本→海外)をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。

※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。

